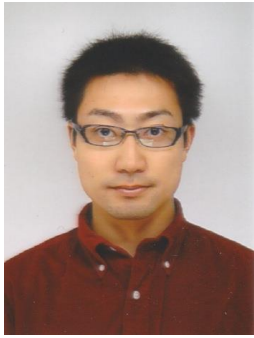


ふりがな 氏名	よこた はじめ	都道府県	愛媛県	
	横田 創			
所属/肩書	公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟／理事			
私の ESD活動	民間ユネスコ活動を中心とした地域と世界が つながる学び合いの場づくり			

活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

ヨハネスブルク・サミット提言フォーラム地域セミナーを松山に招致（2002年7月、唯一の学生主体による地域セミナー）し、ESDの取り組みを始めた。以来、主として民間ユネスコ活動の中で国内におけるESDの取り組みを実践している。

例えば、2005年度ユネスコ・ユースセミナーにおいては「今、私たちにできるユネスコ活動とは？ーきっかけはESDー」と題して、全国から集まった青年リーダーに対するESDの普及に取り組んだ。企画責任者として関わったこの事業では、既存のユネスコ活動とESDの関係を整理し、参加者が地域に持ち帰って実践できるワークショップを体験してもらい、学校等で活用できる授業案の形で整理して提示した。これを契機に地域のユネスコ協会等の青年活動の中では一定程度ESDが取り入れられた。

また日常的にユネスコスクールを含む学校等や生涯学習センターと連携し、出前授業などを通して様々なESD的な学びの場づくりを実践している。愛媛大学環境ESD指導者養成講座には2009年度から外部講師等として関わり、棚田の残る東温市の里山における1年間を通したお米づくりに関わるフィールドワークなどを実施した。また同大学等でつくる「日本・インドネシアの農山漁村で展開する6大学協働サービスラーニング・プログラム」におけるフィールドワークの受け入れ等も同地域で実施し、日本人学生だけでなく、インドネシア、アメリカ、フランスなどの学生も参加して「都市と農村の関係から持続可能性を考える」というテーマのプログラムを行い、地域に根付くESD活動を地域から世界に発信するとともに、地域と世界が双方向につながり学び合う場づくりを試みた。

国外では、東ティモール民主共和国の農村において住民主体のCLC（コミュニティ・ラーニング・センター）の設立・運営に協力し、プログラム中にESD的な視点を組み込む重要性を提言している。

・ユネスコ・ユースセミナー紹介：<http://www.mext.go.jp/unesco/008/002.htm>

・愛媛大学 SUIJI サービスラーニング・プログラム：

http://www.ehime-u.ac.jp/english//information/about/publicity/newsletter/detail.html?new_rec=10618

今後のESDの発展のために、若者はどのような役割を担えますか？

ESDの具体的な実践は、持続可能な地域づくりと結びつくことで大きな効果を上げると考える。地域づくりに関わる若者が増え、そうした若者がESD的な視点を持って地域づくりに取り組むことが重要ではないか。まず、若者が地域の人々の話を聞き、主体的に建設的な議論に加わっていく姿勢を見せることは、学び合うという姿勢を地域の中で醸成する。また、若者の主体的な参加が、未来志向の取り組みを生み出す。そして、「任せて文句垂れる社会」から「引き受けて考える社会」へ、自立した地域へと人々を動かす原動力になりうるのではないか。そうして持続可能な地域への学び合いが有機的につながった時、初めて全体として持続可能な地球社会への道筋が見えてくると考える。